

特集
4

寒締めハウレンソウ新品種

ゆきみなぜろつう
「雪美菜02」(試作系統名 雪911)の特性と栽培の要点

1.はじめに

近年、「ちぢみハウレンソウ」とうたった“寒締めハウレンソウ”が普及し、“ちぢみ”と“食味(甘み)”を強調する販売方法によりスーパー等で目にすることも多くなりました。

今秋より販売しました寒締めハウレンソウ新品種『雪美菜02』は食味、耐寒性、収量性に優れた寒締め専用の縮み系ハウレンソウで、べと病レース1~12に抵抗性を示し、生育・収穫期間が長く寒締め品種として最適です。ここでは、本品種の特長および栽培の要点についてご紹介致します。

2.新品種「雪美菜02」特性



▲写真1
「雪美菜02」

1) 食べておいしい縮み系ハウレンソウ

~えぐみ少なく、甘い!!~

「寒締め栽培」とは、秋にハウレンソウを収穫可能な大きさまで生長させた後、寒気に当てて糖分などの栄養成分を高める栽培方法です。冬に寒風に当てながら、約100~120日をかけて栽培することで強い甘みが生まれます。本品種は、糖度の乗りが非常に良く、食味の良さと縮みのある草姿で差別化商品としてご利用頂けます。

2) 生育はじっくり、耐寒性に優れ、

濃緑・肉厚の多収種!

気温がやや温暖な時期にも、生育がゆるやかで収穫適期の幅が広く、在圃性に優れます。また、寒さによる葉柄の傷みや葉の劣化が少なく耐寒性に優れます。極濃緑で照りがあり、葉肉が厚いため退色しにくく、やや葉先が尖る広葉の中間葉種です。葉数が極めて多く開張性で株張りが良いため収量が上がります。

3) べと病に強く、作りやすい!

耐病性は多湿条件で発生する‘べと病’に対しレース1~12の抵抗性を持ち、べと病の汚染地域でも安心して利用できます。また、アブラムシによって媒介されるウイルス病についても比較的強く、栽培しやすい品種です。

3.栽培の方法

1) 北海道・東北・高冷地の場合

①ハウス栽培を基本とし、主に『9月上旬~9月下旬まで』播種されたものが対象となります。無理な早播きでは株が大きくなり調整作業に時間を要するため、注意が必要です。また、遅播きでは低温により十分生育できず、収量が上がらない場合があります。

収穫時期は十分に低温に当たった『12月中旬~2月下旬』になります。

②栽植密度は条間20~25cm、株間10cmの1粒播きを基本とします。極端な厚播きでは生育の強弱が出るので注意します。

③露地栽培の標準施肥量は10a当たり成分量で窒素15kg、リン酸15kg、カリ15kgが目安ですが、ハウス栽培ではそれぞれ8~10kg程度に減肥します。



▲写真2 岩手県
「雪美菜02」草姿(ハウス栽培:マルチ)



▲写真3 宮城県
「雪美菜02」栽培風景(露地栽培)



▲写真4 宮城県
「雪美菜02」草姿(露地栽培)



▲写真5 千葉県
「雪美菜02」草姿(露地栽培)

- ④糖度を乗せるため、収穫可能な大きさに達した段階で、凍害に気を付けながら、ハウスの両サイドを50cm程度開けて外気にさらします。開放は風向きに対する考慮も必要ですが、基本的に両サイドを開放します。

2) 一般平坦地の場合

- ①露地栽培を基本とし、主に『9月下旬～10月上旬まで』播種されたものが対象となります。無理な早播きは株が大きくなり調整作業に時間を要するため、注意が必要です。また、遅播きでは低温により十分生育できず、収量が上がらない場合があります。収穫時期は十分に低温に当たった『12月下旬～2月下旬』になります。
- ②栽植密度は条間20～25cm、株間10cmの1粒播きを基本とします。極端な厚播きでは生育の強弱が出るので注意します。
- ③露地栽培の標準施肥量は10a当たり成分量で窒素15kg、リン酸15kg、カリ15kgが目安ですが、ハウス栽培ではそれぞれ8～10kg程度に減肥します。

1) 葉